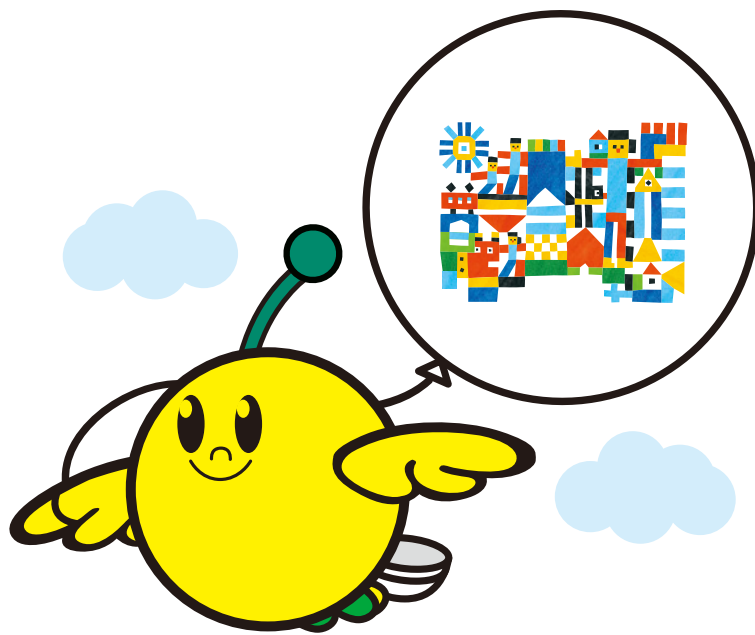


福島県東日本大震災子ども支援基金

事業報告書



福島県復興シンボルキャラクター
キビタン

福島県
〔令和7年度版〕

ご あ い さ つ



平成23年3月の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から14年余が経過しました。

この間、国内外の多くの皆様から様々な御支援をいただいていることに対し、心から感謝申し上げます。

震災と原発事故からの復興に取り組む福島県では、去年は県産農産物の輸出量が過去最高を更新したほか、県内への移住者数や移住相談件数、外国人宿泊者数も過去最多を更新するなど、これまで続けてきた挑戦の成果が形となって現れてきております。一方で、今もなお、約2万4千人の方々が避難生活を続けているだけでなく、古里への帰還を果たしても、多くの仲間と暮らしたかつての日常は失われたままであり、長期にわたる廃炉作業や、除去土壌等の県外最終処分に向けた取組など、原子力災害特有の課題は依然として山積しています。

こうした中、被災した子どもたちを長期的、継続的に支援するため、国内外の皆様からお寄せいただいた「東日本大震災ふくしまこども寄附金」を活用し、保護者が死亡したり行方不明となった児童（遺児・孤児）に対する支援に加えて、本県の子どもたちが、様々な困難を乗り越え、心身ともに健やかに育つための施策に活用させていただいております。

本県に心を寄せてくださる全ての方々と力を合わせて、明るく豊かな福島県を築いてまいりますので、今後とも御理解と御支援をお願いいたします。

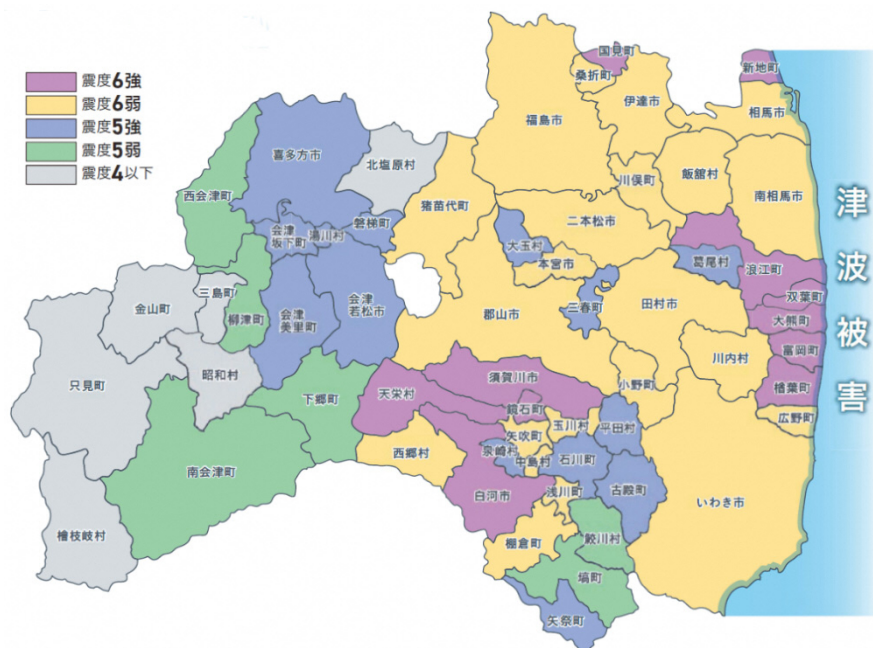
令和7年10月

福島県知事 内堀雅雄

福島県の発災当時の被害状況と現在

平成23年3月11日14:46に三陸沖を震源として発生した「平成23年 東北地方太平洋沖地震」（東日本大震災）は、マグニチュード9.0を記録し、観測史上最大の地震でした。

福島県では最大震度6強を記録し、激しい揺れとともに、広い範囲で大津波が押し寄せました。東京電力福島第一原子力発電所でも事故が発生し、未曾有の複合災害となりました。



地震や津波等により多くの尊い命が失われ、10万棟近くの住家が全半壊しました。また、原子力災害の影響で県土の1割を超える区域に避難指示等が発出され、多くの県民がふるさとを離れての生活を余儀なくされました。

震災から14年余が経過した今、公共土木施設の復旧や避難指示の解除が進むなど、復興は着実に進展している一方で、未だ多くの方々が避難生活を続けているほか、被災者の生活再建、根強く残る風評と風化の問題など、本県特有の多くの課題を抱えています。



吉間田滝根線 広瀬工区（小野 IC）



撮影：Dory 誠

CREVA おおくま（大熊町産業交流館）

「東日本大震災ふくしま子ども寄附金」について

東日本大震災では、多くの子どもたちが親を失いました。加えて、原子力災害により、住み慣れた地域から長期間離れなければならない子どもたちも多く、様々な喪失体験によって、心に大きな負担がかかっています。

こうした中、福島県では、平成23年8月から東日本大震災による震災孤児等への支援のための寄附口座「東日本大震災ふくしま子ども寄附金」を開設しています。

これまで、国内外の皆様からあたたかいご寄附をお寄せいただき、多くの子どもたちが夢に向かってはばたくことができました。これからも、子どもたちが震災前に抱いていたそれぞれの夢をあきらめることなく、着実に前に進んでいくことができるよう、大切に有効に活用させていただきたいと考えています。

○ 寄附の状況（令和7年3月31日現在）

寄附総件数 21,933 件 寄附総額 7,579,352,933 円

○ 被災孤児、遺児（令和7年3月31日現在）

- ・ 孤児：24 人（孤児：両親若しくは単親の場合、現に養育していた親が死亡又は行方不明となった児童）
- ・ 遺児：180 人（遺児：両親のうちいずれかが死亡又は行方不明となった児童）

「東日本大震災ふくしま子ども寄附金」を活用した事業について

1 福島県東日本大震災子ども支援基金給付金

福島県東日本大震災子ども支援基金条例を制定し、東日本大震災ふくしま子ども寄附金を基金に積み立て、東日本大震災により、保護者が死亡又は行方不明となった児童（孤児・遺児）に対して、生活及び修学を支援するための給付金を給付する事業を実施しています。

1 対象者 東日本大震災により保護者が死亡し又は行方不明となった児童

2 給付期間 大学等卒業までの期間

3 給付金の種類及び金額

（1）月額金

ア 未就学児童	月額（孤児：30,000 円、遺児：20,000 円）
イ 小・中学校に在籍する者	月額（孤児：40,000 円、遺児：30,000 円）
ウ 高等学校等に在籍する者	月額（孤児：50,000 円、遺児：40,000 円）
エ 大学及び専門学校等に在籍する者	月額（孤児：60,000 円、遺児：50,000 円）

（2）一時金

ア 小学校入学時給付金	30,000 円	イ 小学校卒業時給付金	50,000 円
ウ 中学校卒業時給付金	100,000 円	エ 高等学校卒業時給付金	300,000 円

4 給付実績（令和7年3月31日現在） 給付実人員 199 人 総給付額 823,820,000 円

寄附をくださった皆様へのメッセージ

○「福島県東日本大震災子ども支援基金給付金」をお届けしている児童・生徒や保護者の方々から、寄附をくださった方へ寄せられたメッセージをご紹介します。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

長い長い期間のご寄附、
誠にありがとうございます。震災の
年に生まれた子どもは中学2年生に
なりました。

毎年、福島県をつづいて送っていたく
メッセージにも、本当に勇気づけられず。
お互い顔を合わせたことがなくとも、
支えられていると感じ、心強く思います。

学校 中学校・高校・大学・その他(保護者)
学年 1年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

初夏のさわやかな季節となりましたが、皆様には
お変わりなくお過ごしのことと存じます。
いつも奨学金をご寄付いただき、本当にありが
たうございます。いより感謝申し上げます。
皆様のご支援のおかげで、学業とアルバイトの両立を
続けながら充実した学生生活を送ることができています。
最近では将来に向けて就職活動にも意識が向き始め、
自分の進路と真剣に考える機会が増えてきました。
物価の上昇が続く中で生活は楽ではありませんが、
奨学金の支援により何とか日々を乗り越えることが
できています。今後も感謝の気持ちと力を
学びと深め社会に貢献できる人材を目指し
努力してまいります。暑い日が続きそうですが皆様
お体に気をつけてお過ごし下さい。

学校 中学校・高校・大学・その他()
学年 3年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

いつも温かい御寄付とありがとうございます。
皆様のおかげで
私は学業にも楽しいバンドの活動にも
全力で取り組んでいます。
今後とも応援していただけたら
うれしいです。

学校 中学校・高校・大学・その他()
学年 1年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

①寄付金ありがとうございます。
今は大学で言語や文化の勉
強を頑張っています。
これからもっと頑張っていってし
かり就職して恩返しできるよ
うに頑張ります。(姉)ダンス部
②寄付金ありがとうございます。
僕は今部活動(サッカー)を
頑張っています。これからも上
手になるために頑張ります。(弟)バスケット部

学校 中学校・高校・大学・その他()
学年 1年生 ※お名前を書く必要はありません。

寄附をくださった皆様へのメッセージ

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

いつもご支援くださりありがとうございます。
ごさいます。今年の4月から地元の企業
に就職し、社会人として日々過ごしてい
ます。最近 配属先が決まり、初めての
ことばかりで、ついて行くことに必死で
すが、何とか自分のペースで頑張ってい
ます。これまで何不自由なく過ごしたのは、
本当に皆様のおかげです。皆様のお気
持をしっかりと胸にしまって、思いやりのある
大人になっていきたいと思ひます。今も
ご支援いただきありがとうございます。
♡

学校 中学校・高校・大学・その他 (社会人))
学年 〃 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

このたびは、ご支援をいただき
本当にありがとうございました。
皆さまからの温かいお気持ちは、
被災した私たちにとって大きな支えに
なりました。
あの日から14年経ちましたが
今もこうして応援してくださることに
心から感謝しています。

学校 中学校・高校・大学・その他 ()
学年 4 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

20才になりました。1月15日に成人の日の
式典に参加し、新たに大人としての自覚を身に
行動しなければいけないと思ひました。
大学の授業の一環で、病院や施設での実習で
多くの人達に接し学びます。色々と難しい事
ばかりですが、自分の夢が実現できるように
勉強に励み頑張りたいと思ひています。
ご支援ありがとうございます。

学校 中学校・高校・大学・その他 ()
学年 2 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

いつもお世話になっ
ております。
おかげさまで、学校や部活、
学習塾にかんばっています。
バより、お礼申し上げます。

学校 中学校・高校・大学・その他 ()
学年 2 年生 ※お名前を書く必要はありません。

寄附をくださった皆様へのメッセージ

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

このたびは「寄附」という形で
温かいご支援を賜り、誠にありがとう
ございます。
みなさまからのご厚意は、
私にとって何れの励みとなります。
今後とも温かく見守っていただければ
幸いです。

学校 中学校・高校・大学・その他()
学年 4 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

日頃から支援して下さっている
皆様方へ心より感謝申し
上げます
おかげ様で私も高2年生に
なりました。
これも皆様方のおかげとあり
がたく思っています
本当にありがとうございます
ただ感謝しかありません
本当にありがとうございました。

学校 中学校・高校・大学・その他()
学年 2 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

皆様の寄附のおかげで
思う存分勉学に励むことが
でき、4月からは無事に
第1志望だった大学に
通うことができています。
ご支援ありがとうございます。
大学生活を思いっきり
楽しめます!!

学校 中学校・高校・大学・その他()
学年 1 年生 ※お名前を書く必要はありません。

次頁からは、
「ふくしまこども寄附金」
を活用した支援事業の一
部をご紹介します。



ベコ太郎

2 「ふくしまこども寄附金」による支援について

福島県では、子どもたちの「心身の健やかな成長」、「学力、運動能力、情報発信能力や表現力等様々な能力育成」及び「ふるさと福島への愛着心醸成」など、県内の子どもたちの将来の夢や希望の実現を支援する事業に、「ふくしまこども寄附金」を活用しています。その支援事業の一部を紹介します。



海外サッカークラブと連携した子どもの夢応援事業

1 事業概要

国内最高レベルの天然芝ピッチを有し、復興のシンボルとして再開を果たしたＪヴィレッジにおいて、海外サッカークラブと連携して次の２つの事業を行いました。

- ① 小学生を対象とした、元女子ワールドカップ優勝監督等を講師にしたサッカー教室や、現ベルギープロリーグ所属の日本人選手等をゲストとしたオンライン交流会

○サッカー教室講師

佐々木 則夫元日本女子代表監督、大塚 慶輔日本女子代表フィジカルコーチ

○オンライン交流会ゲスト

岡崎 慎司氏、山本 理仁選手、藤田 譲瑠チマ選手

- ② 中学生を対象とした、ベルギープロリーグの育成スタッフによるイベント

2 事業実施時期及び参加者数

- ① 令和6年9月23日（月） 参加者109名

- ② 令和7年1月11日（土）～13日（月） 参加者100名

3 事業実施による効果

海外で活躍するプロサッカー選手やトップレベルのコーチと関わり、指導を受けることによって、参加した子どもたちの夢の実現や心身の成長につながる機会となりました。

4 参加者の声

- 夢や目標に向けて努力するきっかけになった。
- ミスを恐れていたけど、明日から恐れずにチャレンジしようと思った。
- 自分にプラスになることばかりだったので、吸収してさらに成長したい。

5 お問い合わせ先

福島県企画調整部 エネルギー課（TEL：024-521-7116）



輝け未来へ！スマイルスポーツ教室 in ふくしま



1 事業概要

福島市出身のエアレースパイロット「室屋 義秀」氏をはじめとした様々な講師を招き、親子一緒にスポーツを楽しみながら、トップアスリートの技能を見たり、経験談を聞いたりできる教室を開催しました。

2 事業実施時期及び参加者数

スカイスports教室：令和6年6月2日（日） 参加者数168人

スケートボード教室：令和6年9月29日（日） 参加者数52人

BMX 教室：令和6年11月24（日） 参加者数36人

3 事業実施による効果

国内外で活躍する講師との触れ合いを通して、新たなスポーツにチャレンジし、楽しさを体感することで、子どもたち自身の将来の自分づくりに向けた夢や希望を育むことができました。



4 参加者の声

- 普段経験できないスポーツにチャレンジできた。
- 親子で参加でき、楽しい時間を共に過ごすことができました。
- 子どもがとても楽しく体験できたので、また、やらせたいと思いました。

5 お問い合わせ先

福島県文化スポーツ局 スポーツ課（TEL：024-521-7995）

ふくしまの夢応援事業



1 事業概要

県内に拠点を置く5つのプロスポーツチームと連携し、3つの事業を実施しました。

【連携したプロスポーツチーム】

- サッカー：福島ユナイテッドFC、いわきFC
- バスケットボール：福島ファイヤーボンズ
- バレーボール：福島デンソーエアリービーズ
- 野球：福島レッドホープス

【実施事業】

① 運動教室

各チームのレギュラー選手やコーチ等が学校等を訪問し運動教室を実施。

② 地域の子どもたちとの交流会

スポーツ少年団や部活動に所属する子どもと、プロスポーツチームに所属しているユ

ースチームとの交流大会を実施。

③ ホーム公式戦における特別な体験機会の提供

公式戦において、試合開始直前のエスコートキッズやアリーナ DJ 等の職業体験等を実施。

2 事業実施回数及び参加者数

① 運動教室：44回、参加者数2,123人

② 地域の子どもたちとの交流会：4回、参加者数594人

③ ホーム公式戦における特別な体験機会の提供：14回、参加者数2,070人



3 事業実施による効果

参加した子どもに喜んでもらうだけでなく、特別な機会や経験を提供することで、子どもたちの心身の充実、健全な育成につなげることができました。



4 参加者の声

○選手が学校を訪問してくれて、とてもうれしかった。

○普段プロの選手が使用するコートでプレイできる機会はほとんどない経験なのでうれしかった。

5 お問い合わせ先

福島県企画調整部 地域振興課 (TEL: 024-521-7102)



東日本大震災・原子力災害伝承館学習活動支援事業

1 事業概要

震災と原発事故の記録や教訓を地域や世代を超えて継承する施設として令和2年9月に開館した東日本大震災・原子力災害伝承館を学習活動に活用するため、県内外の小中学校及び高等学校の児童・生徒が学習活動で訪問する際の費用の補助等を行いました。



2 利用学校数

274校 (16,764名)

3 お問い合わせ先

福島県文化スポーツ局 生涯学習課 (TEL: 024-521-7404)

震災・原発の経験・教訓、復興状況伝承事業 (ジャーナリストスクール開催事業)



1 事業概要

未来を担う子どもたちが、ふるさと「ふくしま」において復旧・復興に取り組んでいる個人や団体に対して、これまでの努力や成果、今後の夢や目標等取材し、新聞としてまとめ発信することにより、自分たちの住む「ふくしま」の良さを知るとともに、将来の夢や希望を深く考える機会を設けました。

2 事業実施時期及び参加者数

実施時期：令和6年8月8日（木）、10日（土）、11日（日）、17日（土）

参加者数：小学生16名、中学生14名、高校生7名、

OB・OG8名、新聞発表会参観者・保護者90名

3 事業実施による効果

子どもたちに、復興に取り組む方々と直接関わる機会を提供し、自ら学び、考え、自分の言葉で発信する体験をさせることで、改めて震災と向き合い、復興に向かって踏み出そうとする自主性を支援することができました。作成した新聞は、県内外の避難者や県内の各学校に配付することで、復興に取り組む方々やそれに関わる子どもたちを知らせることや、ふるさと「ふくしま」の現状や復興の取り組みを認識したり、福島の未来を考えたりする機会を提供することができました。

4 参加者の声

○震災についてあまり意識して見ていなかったが、この経験を通じてもっと福島について深く知りたいと思った。復興への歩みはまだまだ課題があるが、私たちも少しでも福島に貢献する活動がしたい。

○復興の大変さを知って、前の福島よりもっといい福島にしていってほしいなと思った（もちろん自分も良い福島にしていこうために頑張りたい）

○ジャーナリストスクールに参加するのは3回目だけど、毎回違う学びがあって自分のためになることばかりで参加してよかったなと思いました。



5 お問い合わせ先

福島県文化スポーツ局 生涯学習課 （TEL：024-521-7404）



ふくしま絆ふれあい支援事業

1 事業概要

日常生活の中で感じた思いや願いなどを十七音で表現することをおして、子どもの豊かな心を育成するとともに、人と人との「絆」を強め、家庭や地域の教育力の向上を図りました。また、県内外からふくしまへの思いや震災体験、それを乗り越えてきた気持ちを詠んだ作品も募集し、震災の記憶の継承と復興に向けた思いを共有する機会としました。

【募 集】○絆部門：日頃考えていること、日常生活等での共通体験をとおした十七字

○ふるさと部門：ふくしまへの思い、復旧・復興について、震災の記憶の継承、ふるさととしての福島のよさ、願いについての十七字

2 応募総数及び受賞数

応募総数：38,069組（76,138名）、受賞者：10組（20名）

3 事業実施による効果

「ふるさと部門」には、語り部からきく震災「今と未来」で聞き、感じたことを友達や家族と十七字で表現し、震災の記憶の継承と復興に向けた思いを共有する機会となった。

20年以上の長きにわたり本事業を続けてきたことで、子ども時代に参加した人が、今度は親として参加したり、世代を超えた温かな交流や絆が生まれている。



4 参加者の声

○親子で、コミュニケーションを取りながら、作品をつくれて楽しかったです。来年も機会があれば参加したいです。

○LINE等の会話文章とは全く違う、親子での文章のやり取りは皆無となっている昨今、この事業の重要性を強く感じます。日常のなにげない会話だったり、普段は言葉に出しづらい思いが十七文字に表れる（表せる）機会を今後もぜひ推進して頂きたいと思います。

5 お問い合わせ先

福島県教育庁 社会教育課（TEL：024-521-7799）



ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト

1 事業概要

中高校生を対象にしたビブリオバトル（お勧めの本を紹介しあう書評合戦）福島県大会を通して、読書の楽しさを知り、自ら進んで読書に親しむきっかけをつくるとともに、望ましい読書習慣の形成に寄与することを目指しました。

2 参加者数及び観戦者数

県北地区予選会	発表者 11名（中学生6名 高校生5名）	観戦者 107名
県中地区予選会	発表者 17名（中学生7名 高校生10名）	観戦者 133名
県南地区予選会	発表者 8名（中学生6名 高校生2名）	観戦者 120名
会津地区予選会	発表者 10名（中学生5名 高校生5名）	観戦者 107名
南会津地区予選会	発表者 9名（中学生5名 高校生4名）	観戦者 108名
相双地区予選会	発表者 7名（中学生4名 高校生3名）	観戦者 63名
いわき地区予選会	発表者 12名（中学生5名 高校生7名）	観戦者 119名
県大会	発表者 14名（中学生7名 高校生7名）	観戦者 161名

3 事業実施による効果

昨年度と比べ中学生・高校生ともに参加者も観戦者も増加し、読書活動への関心が高まっただけでなく、情報発信能力の育成・向上も図られました。



4 観戦者の声

- 発表者の伝えようとする熱意に圧倒された。とても興味深く、プレゼンされた本を手にとりたいと思いました。
- 昨年に続いて観戦させていただきました。本にも発表者にも、とっても興味がわき、投票するのが本当に難しかったです。

5 お問い合わせ先

福島県教育庁 社会教育課（TEL：024-521-7799）

ふくしま「若者×メディア芸術×デジタル」推進事業



1 事業概要

県内の中高大学生を対象にデジタル技術を活用したメディア芸術作品の展覧会、デジタル機器を用いた作品制作のワークショップを開催しました。



2 事業実施回数及び総参加者数

展覧会：会津若松展 令和6年11月9日（土）～10日（日）

須賀川展 令和7年1月18日（土）～19日（日）

ワークショップ：全14回 参加者数164名

3 事業実施による効果

子どもたちの創作意欲を刺激し、自己表現や、他者の表現を感じる力の育成が図られました。また、作品が審査員に評価されることで子どもたちの自信にも繋がりました。

4 参加者の声

- 普段とは異なる機器を使ってアニメーションを制作し、様々なことができることを知り、わくわくしながら取り組めた。
- アニメーション制作の経験がなく、わからないことだらけであったがいろいろなことを知れた。これから練習を重ねうまく作れるようになりたい。

5 お問い合わせ先

福島県文化スポーツ局 文化振興課 (TEL: 024-521-7154)



理数コンテスト事業

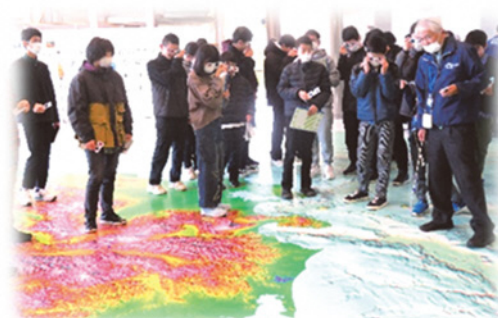
1 事業概要

イノベーション・コースト構想等の大規模プロジェクトを担うトップリーダー（理数系の人材）を育成するため、次の4つの事業を実施しました。

- ① 福島県算数・数学ジュニアオリンピック（算数・数学コンテスト）
- ② 科学の甲子園ジュニア福島県大会（理科コンテスト）
- ③ 先端技術体験
- ④ 「科学の甲子園」福島県大会

2 事業実施時期及び参加者数

- ① 令和6年10月20日（日） 529名
- ② 令和6年8月8日（木） 151名（51チーム）
- ③ 令和6年12月21日（土） 28名
- ④ 令和6年11月10日（日） 86名



3 事業実施による効果

児童生徒の理科・数学の興味や関心を高め、挑戦する心を育成することができたと考えています。また、チームで課題解決に向かうことの大切さ、困難を乗り越えた達成感等を味わうこともでき、コンテストや大会を通じて、福島の復興を担う人材育成に寄与できたと考えます。

4 参加者の声

- どんどん正確になっていく地図を見て、技術が発展していることを感じ、本当にすごいなと思った。
- 自分は理科が得意だと思っていたが、今回を通してもっと上がいると気づくことができた。

5 お問い合わせ先

福島県教育庁 義務教育課 (TEL: 024-521-7774)
 高校教育課 (TEL: 024-521-7772)

元気なふくしまっ子食環境整備事業



1 事業概要

小中学生を対象に地元の農水産物を活用した料理コンテストを開催し、入賞したレシピについては広く県民に発信することにより、子どもたちの食育や地元の食材に対する理解を深め、併せて、地場産物の活用率の向上にもつなげました。

2 応募点数及び参加校数

小学生：5, 944点（271校）、中学生：11, 457点（125校）

3 事業実施による効果

料理コンテストをとおり、日本型食生活についての関心、毎日愛情を込めて食事を作っている家族に感謝の気持ち、ふるさとを愛する心を育むことができました。

また、入賞作品のレシピを掲載したチラシを県内のスーパーの店頭や地場産物販売コーナー等に設置し、県民に広く情報を発信することで、望ましい食習慣の形成の一助となりました。



4 参加者保護者の声

○このコンテストに応募するにあたって、親子で福島の特産物や、郷土料理について調べてみました。福島にはたくさんの特産物がある事に驚き、改めて福島にはおいしいものが豊富にあるのだと気づいた様です。最終審査へ進むことが決まってからは部活などで忙しい中、時間をうまく使いながら練習していました。作ったお弁当を家族みんなで試食をしながらアドバイスをもらった事も励みになったと思います。今回のコンテストで改めて食の大切さを知ることができ、いい経験ができました。

5 お問い合わせ先

福島県教育庁 健康教育課（TEL：024-521-8409）

夢に向かってテクノチャレンジ事業



1 事業概要

震災から立ち上がり、自信と向上心をもって生きることができる生徒の育成を目指し、特別支援学校高等部で取り組んでいる進路に関する学習について、県内全ての特別支援学校の生徒が一堂に会して学習の成果を発表し、外部専門家からの客観的な評価を受ける機会を通して、生徒の自立と社会参加につながる知識や技術の向上を図りました。

2 事業実施時期及び参加者数

県内特別支援学校高等部生徒 203名（19校）

3 事業実施による効果

本県における特別支援学校高等部卒業生の企業就職率は、作業技能大会開催後は徐々に高まってきています。10年前は、17.1%でしたが、令和6年度は、30.1%と初めて30%を超えました。作業技能大会を継続して実施してきたことで、雇用促進に向けて幅広くアピールすることができています。



4 参加者の声

- もっと綺麗に出来るように、技術を高めて行きたいです。
- 最初は緊張したけど、全部のセリフを笑顔で出来ました。コースターと伝票は忘れないで出来ました。学校での練習の成果がだせたと思います。

5 お問い合わせ先

福島県教育庁 特別支援教育課（TEL：024-521-7780）



こどもの居場所づくり支援事業

1 事業概要

家庭、学校以外の第三の居場所として子どもたちが安心して過ごすことのできる、子ども食堂を始めとするこどもの居場所の新規開設や中間支援の取組を支援し、経営基盤の強化を図りました。

2 実施回数及び参加者数

- ① こどもの居場所の活動基盤強化に係る研修会：9回（171人）
- ② こどもの居場所立ち上げ講座：5回（83人）
- ③ こどもの居場所等へのアドバイザー等の派遣：59回

3 事業実施による効果

こどもの居場所の空白地帯の解消、充足率の向上によって、子どもたちが居場所へアクセスしやすくなりました。また、こどもの居場所の経営基盤が強化されることによって、継続的に子どもたちを支援する体制が確立されました。



4 お問い合わせ先

福島県こども未来局 こども・青少年政策課（TEL：024-521-7187）

未来に進もう！こどもの夢応援事業



1 事業概要

児童養護施設等を退所し、進学する児童について、生活を支援する生活給付金、進学・新生活準備のための入学支度金、住居契約の更新等の臨時支出費用のための臨時給付金を給付することで、経済面の安定を図り、自立のための支援を行いました。

2 給付実績

生活給付金 23名

入学支度金 12名

臨時給付金 6名

3 事業実施による効果

保護者等からの経済的支援が見込まれない施設退所等児童に対して給付金を支給することで、進学に対するためらいを軽減し、施設退所等児童が希望する進路を選択することができる環境を整備しました。

4 お問い合わせ先

福島県子ども未来局 児童家庭課（TEL：024-521-8665）

○「未来に進もう！こどもの夢応援事業」で給付金をお届けしている生徒の方々から、寄附をくださった方へ寄せられたメッセージをご紹介します。

寄附をくださった皆様へのメッセージ

進学した理由は、プログラミングやIT系の仕事に就きたいと思っているからです。

今は、プログラミングの講義も学んでおり、インターネットのサイトを作成するための基礎的な内容を学んでいて、これから応用的な内容を学ぶので楽しみです。在学中にはインターンにも参加しようと思っています、民間企業への就職を目指しています。

生活の方では心配せずに、続けられているのでありがたいお金です。

この事業のおかげで、短大に進学する事ができ、短大で学んだ酪農・食肉の仕事に就く事ができました。短大卒業と就職の二つの夢を叶える事ができました。ありがとうございました。

動物看護師になりたいという夢があり、専門学校か4年制大学に進学しなければならなかったのですが、自分の貯金だけでは足りない金額でした。この事業に申し込み、給付金を頂ける事になり、専門学校へ進学する事ができました。今は、動物看護師として働く事ができています。本当にありがとうございました。

高校卒業後すぐの就職に不安があり、悩んでいました。この事業を知り、進学の道もある事が分かり、短大へ進学しました。短大では寮生活の中、学校生活の中で色々な事を学ぶ事ができ、今は一人暮らしをしながら、就職をして何とか頑張っています。ありがとうございました。

短大の1年生になる事ができました。こどもの夢応援事業のおかげです。就職しか考えていなかったけれど、力を借りて進学できることを知って良かったです。まだ、1年なので、将来の就職に向けて、頑張りたいです。

高校で学んだ農業の勉強をもっとしたいと思い、農業の短大へ進みました。貯金だけではいけなかったけれど、夢応援事業のおかげで、入学する事ができました。今、2年生になり、農業関係の仕事に就くために、就職活動を頑張っています。

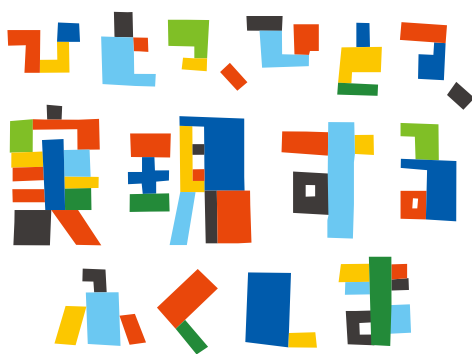
この事業の給付金を頂き、東京都内の専門学校に進学する事ができました。今も東京で就職、生活しています。ありがとうございました。



寄附をくださった皆様から福島の子どもたちへのメッセージ

国内外の寄附者の方々から、福島の子どもたちへ、たくさんのメッセージを寄せていただいています。その中から、一部をご紹介します。

- 被災された子供たちが、笑顔になり夢を諦めることなく将来への希望を持って逞しく成長できるよう、微力ではありますが応援させていただきます。（埼玉県、会社）
- 震災が起こってから 14 年が経ちました。報道される機会は減ってきておりますが、まだ復興が進んでいない地域もあります。昨年もさせていただきましたが、今年も学校全体で寄付活動をさせていただきました。少ない金額ではありますが、少しでも心の支えとなればと思います。（大阪府、学校）
- 福島からこれからも、いっぱい元気をくださいね！応援しています。皆さんの力をいつも信じています。（埼玉県、個人）
- 皆さんが将来の夢に向かって歩んでいる姿に勇気をいただいております。私ができることはほんのささやかなものですが、これからもずっと応援していきます。皆さんの将来の夢はきっと叶います。これからも夢に向かって歩み続けてください。（東京都、個人）
- 毎日、頑張っている皆さんへ 辛い事もたくさんあるだろうけど、その分うれしい事、楽しい事が必ずあります！たくさん遊んで、たくさん勉強して下さいね！（大阪府、個人）
- 子供の時にしかできないことはたくさんあります。お勉強も遊びも、思いっきり楽しんでください。（山口県、会社）
- 毎年、3月11日にこちらへ寄付をしています。寄付ともに、福島のみなさん、そして被災されたみなさんに思いを届けたいと願っています。みなさんが、将来やりたいこと、行きたい場所、なりたいたのものができたときに、わずかでも支えになればいいと思っています。（東京都、個人）
- 寄付のことは気にしないで、自分の好きな仕事・人生を選び、進んでもらえたら嬉しいです。応援しています。（東京都、個人）
- 皆様が未来を切り開いていく姿を応援しています。困難な状況を乗り越え、明るい未来を築いていくために、共に歩いていきましょう。皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。（広島県、会社）
- お一人お一人の未来が、本人にとっての豊かですばらしい、そんな未来が創造されていくことをお祈りしています。（東京都、個人）
- 震災及び原発事故から 10 数年が経ちましたが、皆さんのことを忘れたことは決してありません。これからも皆さんのことを見守り続けていきますので、健やかな成長とふるさと福島の復興をお祈りします。（岐阜県、個人）



令和7年10月発行

福島県 こども未来局 こども・青少年政策課

〒960-8670 福島市杉妻町2番16号

電話：024-521-7198

E-mail: kodomoseisaku@pref.fukushima.lg.jp

[福島県庁ホームページ](#)

[ふくしまこども寄附金](#)

[検索](#)